

質問 1-6 大戸川ダム、天ヶ瀬ダム再開発事業の B/C=1.4 について、算出根拠を教えてください。

(回答)

- 大戸川ダムと天ヶ瀬ダム再開発の費用対効果を算出するにあたり、効果(B)は、昭和 47 年台風 20 号型洪水の 1.53 倍の洪水が発生したときの氾濫シミュレーションにより想定される最大の被害を用いて算出しました。
- 想定される最大の被害を用いたのは、水害に限らず災害の対応を考える際には、防災を担当する行政として、想定の外力に対して、考えられる最悪の事態をあらかじめ把握しておくことが一般的であるためです。
- 堤防は計画高水位を超えても運良く破堤しない場合もあり、また計画高水位に達しなくても破堤する場合もあるように、シミュレーション結果は必ずしも実際の現象と一致するものではありません。
- この手法は、治水経済調査マニュアルに基づいて実施されているものであり、一般的に用いられている手法です。

(関連資料)

- 平成 19 年 12 月 20 日 近畿地方整備局 記者発表資料 淀川水系河川整備計画原案における各ダムの概算事業費とそれを踏まえた治水対策の進め方について
<http://www.kkr.mlit.go.jp/scripts/kisha-uproad/index.pl>
- 平成 19 年 12 月 27 日 第 69 回淀川水系流域委員会 審議資料 1-6
<http://www.yodoriver.org/kaigi/iin/index.html#67th>
- 治水経済調査マニュアル(案)(平成 17 年 4 月)
国土交通省河川局ホームページからご覧頂けます。
http://www.mlit.go.jp/river/basic_info/seisaku_hyouka/gaiyou/hyouka/hyouka.html

※本質問は、平成20年8月25日に開催された滋賀県議会「琵琶湖淀川水系問題対策特別委員会」において、滋賀県から寄せられた質問に対して近畿地方整備局から回答した内容を中心に整理したものです。なお、現在は時点更新も含め内容を精査しており、最新の情報ではない場合があります。